

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道5号 倶知安余市道路（共和～余市）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局	
起終点	自：北海道岩内郡共和町国富 至：北海道余市郡余市町登町	延長	27.6 km			
事業概要						
倶知安余市道路は、市街等における交通混雑の緩和及び交通事故低減による安全性の向上、拠点空港新千歳空港から国際的観光地ニセコへの速達性の向上により、観光振興による地域活性化支援及び有珠山噴火等の災害時の代替路として寄与することを目的とした倶知安インターチェンジ（仮称）から余市インターチェンジに至る延長39.1 kmの事業である。						
H26年度事業化		H-年度都市計画決定 （H-年度変更）		H28年度用地補償着手		
H28年度工事着手						
全体事業費	約1,280億円	事業進捗率	約45%	供用済延長	0.0 km	
		（令和4年3月末時点）				
計画交通量	14,100～15,400台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.3	(残事業)/(事業全体) 952/1,628億円	(残事業)/(事業全体) 2,193/2,193億円	令和4年		
	(1.4)	事業費：823/1,499億円	走行時間短縮便益：1,891/1,891億円			
	(残事業) 2.3	維持管理費：129/129億円	走行経費減少便益：249/249億円			
	(2.8)		交通事故減少便益：52/52億円			
感度分析の結果						
事業全体及び残事業について感度分析を実施						
【事業全体】交通量：B/C=1.2～1.5（交通量±10%）			【残事業】交通量：B/C=2.0～2.6（交通量±10%）			
事業費：B/C=1.3～1.4（事業費±10%）			事業費：B/C=2.1～2.5（事業費±10%）			
事業期間：B/C=1.3～1.4（事業期間±20%）			事業期間：B/C=2.3～2.4（事業期間±20%）			
事業の効果等						
事業の必要性及び効果						
① 観光振興による地域活性化支援 ・新千歳空港や札幌市からニセコ観光圏へのアクセス性が向上し、観光振興による地域活性化支援が期待される。 ② 救急搬送の速達性向上 ・峠部を回避する救急搬送ルートが確保され、速達性及び安定性の向上が期待される。 ③ 災害時の代替路の強化 ・峠部等を回避するルートが確保され、災害時の代替路の確保が期待される。 ④ 道路交通の安全性向上 ・峠部や市街地を回避するルートが確保され、道路交通の安全性向上が期待される。 ⑤ 農産品等の輸送安定性向上 ・峠部や国際海上コンテナ通行不可トンネルを回避することにより、物流拠点への速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、農産品等の流通利便性向上が期待される。 ⑥ 地域産業の活性化 ・小樽・札幌方面からのアクセス性向上による新たな観光需要の創出など、更なる地域産業の活性化が期待される。						
関係する地方公共団体等の意見						
地域から頂いた主な意見等：						
小樽市など1市13町6村の首長等で構成される「北海道横断自動車道黒松内・小樽間建設促進期成会」等より整備促進の要望を受けている。						
知事の見解：						
「一般国道5号 倶知安余市道路（共和～余市）」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。						
当該事業は、新千歳空港から主要観光地であるニセコエリアへの速達性の向上、大規模災害時の代替ルートの確保、高次医療施設への搬送時間の短縮、国際コンテナ通行支障区間の解消による物流の効率化等が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから早期供用をお願いいたします。						

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成26年 7月 蘭越町・ニセコ町・倶知安町の「ニセコ観光圏」が観光圏に認定
- ・平成27年 4月 道の駅「あかいがわ」開業
- ・平成30年12月 北海道横断自動車道 余市IC～小樽JCT間開通
- ・令和 3年12月 小樽港港湾計画の策定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成28年度に工事着手し、用地進捗率約89%、事業進捗率約45%となっている。

(令和4年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

トンネル掘削補助工法の見直しや軟弱地盤対策工の見直し等。
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

トンネル掘削補助工法の見直しや軟弱地盤対策工の見直し等による変更。
引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

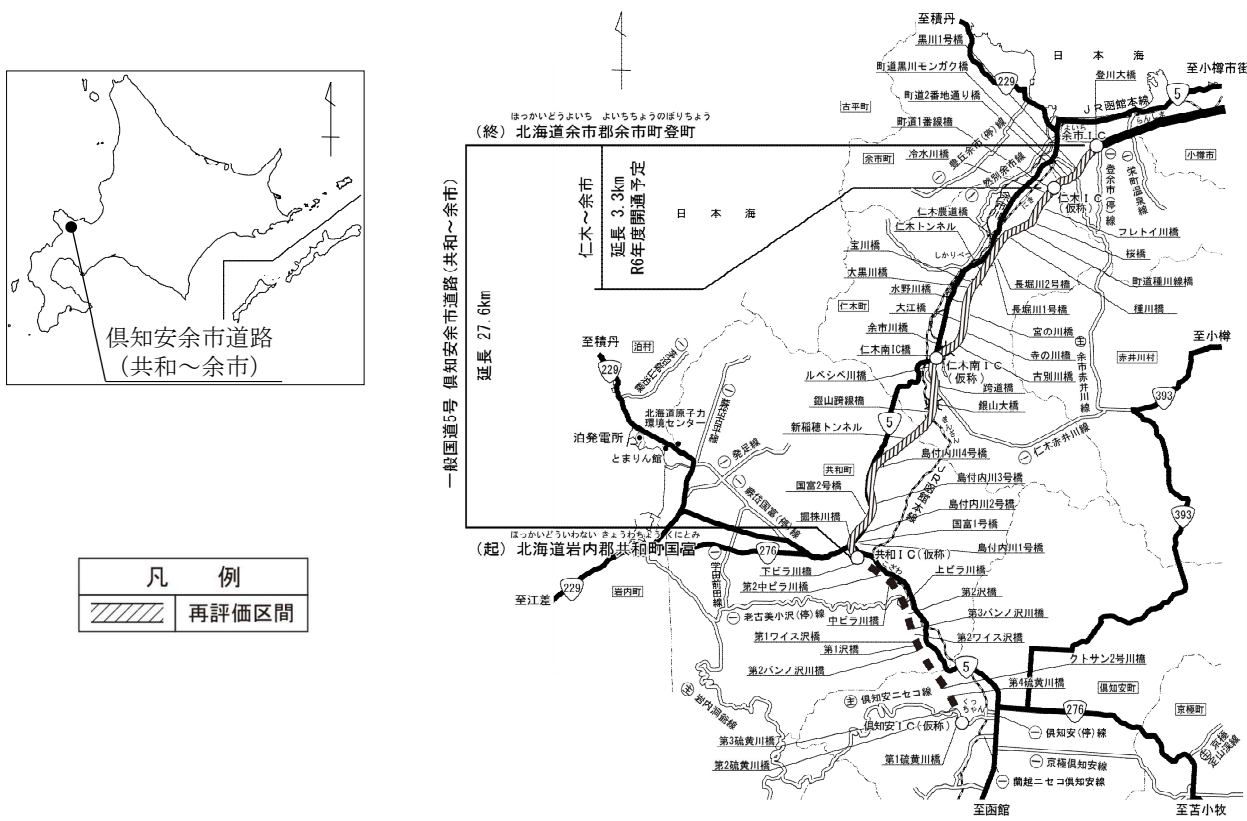
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ B/Cの上段は倶知安～余市を対象とした場合、下段（ ）書きの値は評価区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。